

2 深大寺・佐須地域農を活用したまちづくりワークショップ（フリーディスカッション）資料	
（1）プログラム	160
（2）地域資源図	161
（3）当日説明用スライド	162
（4）実施記録	171

深大寺・佐須地域 農を活用したまちづくり
ワークショップ（フリーディスカッション）
プログラム

平成 25 年 12 月 15 日（日）
調布市環境政策課

13:30 < 開 会 >

1. 挨拶

2. 内容・進め方の説明

13:50 3. ディスカッション （70分）

（1）「地域資源」についての意見交換（10分）

（2）「地域の農を活用したまちづくりのあり方」

意見交換（30分）

（3）「農の回遊・散策ルート」の提案検討（30分）

15:00 4. 発表・全体意見交換（25分）

15:25 5. まとめ（5分）

15:30 < 閉 会 >

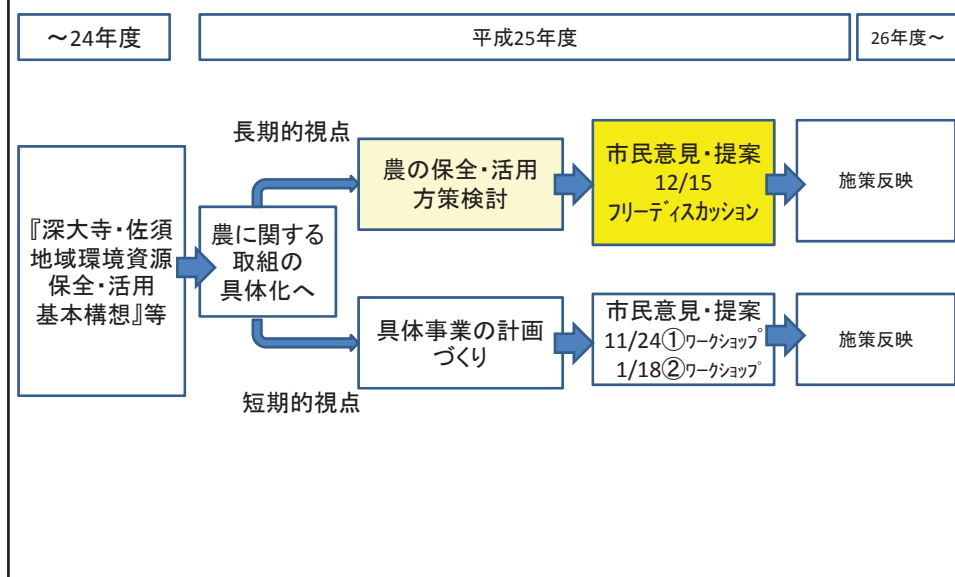
深大寺・佐須地域 地域資源 / 農関連施設図



深大寺・佐須地域 農を活用したまちづくり ワークショップ(フリーディスカッション)

平成25年12月15日(日)
調布市 環境部 環境政策課

目的・趣旨



本日のプログラム

- 13:30 開会
・挨拶
・内容・進め方の説明（多面的機能、地域資源の解説、ディスカッション内容）
- 13:50 ディスカッション（70分）
（1）「地域資源」についての意見交換（10分）

（2）「地域の農を活用したまちづくりのあり方」意見交換（30分）

（3）「農の回遊・散策ルート」の提案検討（30分）
- 15:00 発表・全体意見交換（25分）
- 15:25 まとめ（5分）
- 15:30 閉会

1. 都市部の農が持つ多面的な機能について



身近なまちの暮らしの中で様々な役割を持つ

農風景(田んぼ)と崖線・谷戸の眺望



農の風景の眺望
(屋敷林・樹林のスカイライン)



農の風景の眺望
(佐須街道から)



水路



水路
(開渠となっている水路沿いの活動風景)



水路の施設



農産物直売所



佐須街道沿いの橋の遺構(「しはちくせま」)



案内版

(自然広場案内板、ごみ捨禁止の看板)



生き物



3. ディスカッションの進め方について

(1)「地域資源」についての意見交換（10分）

(2)「地域の農を活用したまちづくりのあり方」
意見交換(30分)

(3)「農の回遊・散策ルート」の提案検討(30分)

(3)「農の回遊・散策ルート」の提案検討 について

①「つなぎたい」、「みせたい」地域資源の抽出

②「ビューポイント(視点場)」や「回遊・散策」ルートの設定
(主要ルート・サブルート)

③「設定ルートの路面整備等」※地権者(営農者)への配慮も必要 過剰にしない

④「ルート脇の付帯施設等」の検討(植栽・ベンチ、案内看板等)

⑤活動、人との触れ合いなどのソフト面のとりくみ

深大寺・佐須地域 ワークショップ（フリーディスカッション）実施記録

■日時：平成 25 年 12 月 15 日（日） 13：30～15：30

■場所：市民プラザ あくろす 会議室

■内容

1. 開会・挨拶

○開会趣旨・目的の説明：河西課長

最終的には一つのモデルケースとして調布地域全体に広げようと考えている。

本日は長期的な視点から国の委託を受けた集約型都市形成の為の実証調査。

今回のような実証調査をこちらの方で受託を出来るようになっている。

皆さんにいろんな意見を出して頂き、国の方まで届けていきたい。



2. 内容・進め方の説明（都市農地活用支援センター 小谷）

○「農の多面的な機能について」

○「深大寺・佐須地域の農に関わる資源について」

○「ディスカッションの進め方について」

3. フリーディスカッション・・・「地域資源」について意見交換

・地域資源についてたたき台に対して追加して残したい、活かしたい資源に整理する。

4. ディスカッション・・・「地域の農を活かしたまちづくりのあり方」についての意見交換

5. ディスカッション・・・「農の回遊・散策ルート」の提案検討

・3、4で出された資源をつなぐ回遊・散策ルートを検討、提案する。その際、ルートの設定、沿道にある資源を活かすデザイン・案内等のあり方を検討・提案する)



6. 発表（発表順）

（1）Bグループ

・田んぼがある、農地であるということ。田んぼのある農地が野川と国分寺の崖線に挟まれていて見通しが効いて一塊になっている景観があるということ。その中を流れている用水が崖線から流れ出ている湧水だということ。さらに、歴史的な遺産、祇園寺、神明宮の森があったり、屋敷林があったり。また、畑では多品種の野菜が作られていて、近所の人も買えるような直売所がある。それが現在の資産、資源である。そして、それを活かしたまちづくりのあり方ということなのですが、先ず私たちは農家さん達とのコミュニケーションが今のところあまりない。例えば、田んぼを今年やらなかった農家さんがなんでやらなかったのか、人手が足りなかったのか、水が足りなかったのか、そうしたこともよく分からないのですけど。それが例えば人がいる直売所がどこかにあって、コミュニケーションが取れば、こんな新しい野菜を初めて見たとか、今年水不足で困っているだとか、そういうコミュニケーションが取れるようになれば大分関係が変わってくるのではないかと。あと、せっかくカニ山でたくさんの落ち葉があるのですから、それを農家の堆肥などに使って頂きたいのですけれども。その時にも、市民の方々に今度使いたいから集めておいてくれないか等のコミュニケーションを取って一緒に協力できる形が取ればよい。また、この所、農家さんの市に対する信頼感が増しているように思える。そのようにコミュニケーションが段々取れるようにもなってきているので、農家さんのお手伝い出来るような関係が築ければ良いなということ。（農家の方々が交代で当番性で直売所に）

・田植えの時に水が足りない問題があるではないか。だからその時にもう少し市のある井戸を汲み上げる、それでも足りなければもう一本井戸を掘っておこうかなどの対策を取ること。また、下の川の方にあまり水路が流れていない。それは下水に水が流れていくから勿体ないから。それについても野川に直接落ちるようにして欲しい。

・野川の方から考えると、最初のビューポイントは崖線まで見通せる場所。次に、尾辻田んぼのある所。それから先ほどの直売所のあるところ。間瀬口橋のあるところ、ガラスのブロックが見えるところ。柏小の裏の田んぼと田んぼの間の公道。ここからカニ山の方を見ると、非常に眺めが良い。地蔵があるところ、崖の途中だけれど良いところ。あとは、祇園寺と神明宮。細田橋に湧水が落ちるところを最初に見せる。水量確保に関して、深大寺用水の所の水も活用出来ないか。

・あとキーワードとしては、自然の緑と農を繋ぐということで、落ち葉の活用。自然循環という言葉。更にもっと知って貰うために人が通れるように綺麗にしたりするには、まだ防犯面で怖い。あとは農業が出来なくなった方々には何らかの形で法人が参入出来たりとか、お手伝い出来る仕組みが出来たらなと考えている。（補足）

(2) Aグループ

・地域資源ということでは、全体の畑、農地の生態系から見た環境、景観などが資源として挙げられる。また、農作業体験などから来る文化的なものもある。例えば、どんどん焼きだとか。ビューポイントという視点から言うと、うなぎの近くから国領を見る視点が中々良い。それからこの地域では目立った屋敷林が二つほどある。祇園寺、神明宮の森もある。当然のことながら、水も重要な自然である。それからその水路にいるカワニナも。カニ山キャンプ場も火を扱える場所という意味では貴重な資源であろうかということ。あと、どんどん焼きは30年程前に無くなったものが、地域の青年会の力で復活した。今の悩みは、建物がどんどん迫って来ているので凡そ30メートル位の火柱になりますので継続が危ぶまれている。本当は、建物が迫って欲しくない。それから当然のことながら田畑は資源の第一。それから農家の方たちの日々の生活も資源の一つ。

・それからこれらを活かした街づくりという観点で、どのようなことを考えなければならないかということなんですけど。先ず風景を残すという意味で、現状の屋敷林は保全が覚束ない。実際には残したいと思っても例えば近隣の苦情で枝を切らなければならないとか。それから、たまたま村越さんの屋敷林は敷地の中に大木があるので残っているのだけれども。そういったものも景観として残していきたい。現実に残るのが心配。残すために何かしなくてはならない。それから生態系の問題として、農業をやるうえでは農薬は欠かせない。それは逆にいうとそこに住む虫を殺す可能性があること。現実には大根の若芽の時に農薬を使わないと悲惨なことになる。どうしても使わないといけない所では使わないといけないが。出来れば使いたくない。そこらへんは考える必要がある。それから農地を残すという意味で後継者がいない。田んぼを残したいとなっても実際にやる人がいなくなる。実際に相続が起こって売られてしまうようなことがあればどうするの。案としては固有地として買い取る。それから人手が足りないところで言えば田んぼを学校の田んぼとして使わせてもらう。その際にそういう農地を活用する際に、例えば市民が利用する、子供たちが利用する際には間に入ってそれを手助けする仕組みが必要。それらはNPOという形をつくって、必要なスキルを維持していく。それから後は水の問題。先ほども出ていたが、今年も田んぼが出来ないところがあつたが、それは水が足りなくて出来なかった。なので、緊急の井戸を掘って欲しいという要望がある。今も虫用に水道の細さの井戸が掘ってあるが、10センチ位の径の井戸が出来れば掘ってほしい。これは単に農業用だけでなく、防災用にも使える。でするので、それを上か途中かにあると田植えの時にだけ使える。日常的には大体水は流れているので、そういった緊急用の井戸が欲しい。それで恒久的な意味では湧水で賄えたらいいが、そのことは別の問題なので今回は触れない。

・最後にここを紹介するという意味で、赤のルート、調布の里山ルート、湧水を辿る道という名称でルートを考えてみた。でそれは、場所々で例えば畑に入ってきたときに北を向いたときに畑から奥の雑木林まで見える、ビューポイントとしては、田中さんのキャベツ畑のあるところ、総菜屋さんがあるところ。それから田んぼの学校の田んぼの脇を通過して、神明宮の方へ抜ける。神明宮の辺りには森があるということもあるし、どんどん焼きの場所もあるということもある。先ほども少し触れませんでしたけど、NPOをつくったり、地域の野菜を売ったりとかの拠点をこの辺に設けたらどうか。で、そこを通過して佐須街道に出る。佐須街道の所から後ろを振り向いて国領のところを見ると、やはり畑から高層ビルが見えるということでビューポイントになる。そこで柏小の脇を通過して、田んぼの間の道に入って谷戸を見る。で谷戸を見たときに田んぼがあるときは稲穂を見ながら奥の雑木林を見ることができる。ということでこのようなルートがいいんじゃないか。

・井戸を掘るといときには井戸の地下水脈がどういう形で繋がっているかを十分に調査して掘らないと、それを掘ったお蔭で今まで出ていた井戸が出なくなるということあり得るので十分に注意して掘らなければならない(補足)

7. ワークショップのまとめ（都市農地活用支援センター 佐藤）

本日は長期的な視点から農地を守っていくためのワークショップ。農地をどう残すかというのを考えると、税金と生産緑地の制度の問題がある。指定後 30 年が経過すると解除＝買い取り請求ができることになっている。それが、9年後。買い取り請求に対して市が買い取れないと、宅地開発に流れていってしまうことになりかねない。

公有地化するためには、財源の問題がある。調布のような市街化区域でも、農家以外 NPO が借りるといっても実際には難しい。その為、これをどうするのかというのもテーマになってくる。

また、屋敷林等の宅地部分が生産緑地並みの低い税金の扱いになっていないことも課題。

今日の議論は、ルートの話も、制度の話も国の方に報告されることになると思う。

8. 閉会

○挨拶（河西課長）

本日のワークショップ

当地区をモデルとして、農業従事者の意見、学識の意見、市民の皆様の意見をそれぞれ伺いながら、農地や緑を残していくための様々な課題を解決するために必要なことをまとめていきたい。



3 深大寺・佐須地域風景写真コンテスト資料

(1) コンテストチラシ	176
(2) 応募作品	181
(3) コンテスト表彰状	223
(4) 写真集	224
(5) ウェブサイトでの啓発	230

深大寺・佐須地域風景写真コンテスト作品募集

～あなたのとおきのおきの風景をご紹介ください～

調布市では、豊かな環境資源を有する深大寺・佐須地域の保全・活用に向けた取組を推進しています。

この深大寺・佐須地域で見られる、自然豊かな風景，農の風景，歴史的な資源やいきいきとした風景等，記憶に残る，あるいは残したいと思われる風景を収めた写真を募集します。



【募集期間】

平成25年11月5日（火）～平成26年1月10日（金）（消印有効）

【対象区域】

深大寺・自然広場から野川までの用水路沿いの区域

※深大寺・南町1，2，4丁目の一部，佐須町4丁目の一部

【展示等】

応募いただいた写真は、地域資源の保全の取組の参考とさせていただくとともに、平成26年2月に予定している、（仮称）「深大寺・佐須地域農地を活かしたまちづくりシンポジウム」会場で展示します。また、地域資源の事例集やパネルを制作する等、広報媒体に掲載する場合があります。

【表彰】

2月に開催予定のシンポジウムでの市民投票や行政・専門家等関係者による選考により5作品程度を表彰します。

☆詳しくは、募集要項をご覧ください

【お問い合わせ】調布市環境部環境政策課

〒182-8511 東京都調布市小島町2-35-1

調布市環境政策課「深大寺・佐須地域風景写真コンテスト」担当

電話：042-481-7086 Eメール：kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

深大寺・佐須地域風景写真コンテスト募集要項

“深大寺・佐須地域 風景写真コンテスト” ～あなたのとっておきの風景をご紹介します～作品募集

深大寺・佐須一帯の国分寺崖線から野川にかけての地域は、緑と水の豊かな自然環境に恵まれ、私たちに潤いを感じさせる風景を見せてくれます。市では、このような地域の良好な風景を広く市民のみなさんと共有することを目的に、深大寺・佐須地域で見られる自然や農、生き生きとした風景など、市民の皆さんのお気にいり、とっておきの風景写真を募集します。

■募集作品

深大寺・佐須地域で見られる、自然豊かな風景、農の風景、歴史的な資源や生き生きとした風景など、記憶に残したいと思われる風景を収めた写真。

■応募条件

- ・ 1人につき5点まで応募可能。
- ・ 原則過去3年以内（平成22年10月以降）に撮影された写真。
- ・ 応募者本人が撮影し、未発表のもの。応募者に全ての権利（著作権）があるもの。
- ・ 写真に人物を入れる場合は本人（未成年者の場合は親権者）の了承を取ってください。（その際も、子どもの顔はできるだけ個人が特定できないよう配慮して撮影して下さい。）

■応募規格

- ・ L版～A4サイズ（297mm×210mm）または6切サイズ（254mm×203mm）
- ・ 電子データで送付の場合は2MBまで

■募集期間：平成25年11月5日～平成26年1月10日（金）（消印有効）

■展示等応募作品の取扱、表彰等

<展示等>

応募いただいた写真は、地域資源の保全の取組の参考とさせていただくとともに、平成26年2月に予定している、（仮称）「深大寺・佐須地域 農地を活かしたまちづくりシンポジウム」会場で展示します。

また、地域資源の事例集やパネルを制作する等、広報媒体に掲載する場合があります。

<表彰>

シンポジウムでの市民投票や行政・専門家等関係者による選考（若干）により5作品程度を表彰します

■応募方法

- ・応募作品には、写真1枚につき応募票を1枚貼りつけてください。
- ・応募票には、住所、電話番号、年齢、応募点数の他、氏名、写真のタイトル、説明文（100字以内）、撮影日、撮影地点を明記してください。
- ・作品は、郵送、持参またはEメールでご提出ください。

■応募先

以下のいずれかの方法で応募ください。

- ・持参：調布市環境部環境政策課
「深大寺・佐須地域風景写真コンテスト」担当（市役所8階）
- ・郵送：〒182-8511
調布市環境部環境政策課「深大寺・佐須地域風景写真コンテスト」係宛
- ・Eメール kankyoun@w2.city.chofu.tokyo.jp
タイトルに「深大寺・佐須地域風景写真コンテスト応募」とお書きください。

■対象区域

深大寺自然広場から野川までの用水路沿いの区域

※深大寺南町1, 2, 4丁目の一部, 佐須町4丁目の一部



■著作権

応募作品を使用するために必要な権利は、主催者（調布市）に帰属するものとします。
入賞した場合、その作品の電子データの提出やネガをお借りする場合があります。

■個人情報、その他注意事項

- ・作品の応募票及び投票用紙に記入いただいた個人情報は、審査及び結果の発表と、応募及び提供された方への連絡のため使用し、その他の目的には使用致しません。

【お問い合わせ】

調布市環境部環境政策課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

調布市環境部環境政策課 「深大寺・佐須地域風景写真コンテスト」担当

電話：042-481-7086～7

Eメール：kankyoun@w2.city.chofu.tokyo.jp


深大寺・佐須地域風景写真コンテスト応募票

住 所			
名 前		電話番号	
年 齢		応募点数	() 点

写真タイトル	
--------	--

写真の説明（100字以内）	
---------------	--

撮影日	平成 年 月 日
	※不明な場合はわかる範囲でご記入ください

<p>撮影地点</p> <p>※地図上に撮影箇所が分かるよう印を付けてください</p>	
---	--



※応募作品が複数の場合は裏面もご使用ください

※応募作品が複数の場合はこちらをご使用ください（複写可）

住 所			
名 前		電話番号	
年 齢		応募点数	() 点

写真タイトル	
--------	--

写真の説明（100字以内）

撮影日	平成 年 月 日
	※不明な場合はわかる範囲でご記入ください

撮影地点
 ※地図上に撮影箇所が分かるよう印を付けてください



調布市

深大寺・佐須地域風景写真コンテスト

応募写真一覧

(受付順)

(1)

佐須用水と案山子と天日干し



【コメント】

初夏に親子が集まって田植えしてた。「田んぼの学校」だそう
だ。実り出した時に案山子が出来た。10月に稲刈り。手前が
佐須用水の分岐水路。この精水が命だ。

(H25.10.14撮影)

(2)

深大の秋の収穫



【コメント】

手前右下が佐須用水。コンクリート版で覆っている。天日干ししたばかりのようだ。右奥でまだ作業をしていた。背景は自然園のある深大寺自然広場である。いつまでも残っていて欲しい風景だ。

(H23.6.22撮影)

(3)

水路を覗くと



【コメント】

周辺の農地を潤す用水路は、珍しい水草の宝庫でもありました。

(H23.6.22撮影)

(4)

初夏の里



【コメント】

雑木林と水田，手入れの行き届いた昔ながらの美しい田園風景が広がっていました。

(H23.6.22撮影)

(5)

個性



【コメント】

雑木林の樹林は思い思いの形で天に向かって力強く伸びていました。

(H23.4.30撮影)

(6)

冬の里山



【コメント】

夕日の下，たき火の煙が流れる里山の風景

(H24.12.16撮影)

(7)

春の使い



【コメント】

満開のカタクリをパチリ！！

(H23.4.7撮影)

(8)

新葉



【コメント】

早春の雑木林，少しずつ樹々の葉が開いて春の訪れを告げていました。

(H23.4.7撮影)

(9)

季節は移ろい心



【コメント】

初夏の雑木林の樹木は，力強く木が葉を広げていました。

(H23.6.22撮影)

(10)

春よ来い



【コメント】

まだほとんど葉っぱのない雑木林の景色。本格的な春が待ち遠しいです。

(H23.4.7撮影)

(11)

夏に向かって



【コメント】

田んぼの稲はすくすくと伸びているようでした。

(H23.6.22撮影)

(1 2)

初夏の水田



【コメント】

植え付けたばかりの稲が青空に向かい、まっすぐのびていました。

(H23.6.22撮影)

(13)

木漏れ日



【コメント】

この道の先には何があるのか？初夏の里山歩きはとても気持ちが良いです。

(H23.6.22撮影)

(14)

子どもたちの探検



【コメント】

都立農業高校神代農場の公開日に子どもたちと農場を「探検」しました。

(H25.6.7撮影)

(15)

木々のトンネルの先におひさま



【コメント】

野草園から南へ向かった出口への木々のトンネルの先に、おひさまがやさしく輝いていました。

(H25.11.30撮影)

(16)

かに山公園へ向かう道



【コメント】

人の住まいから、自然あふれる場との境界。いかにも、「入口」な情景の道。

(H25.11.30撮影)

(17)

晩秋



【コメント】

稲の収穫も終わり、いよいよ冬に向けて野山が準備を始めている情景

(H25.11.30撮影)

(18)

おいしい野菜が出来る畑



【コメント】

この畑を歩いて買い物に行きます。新鮮でおいしい野菜を育ててくれる農業をなさっている方々に感謝しています。いつまでもおいしい野菜を食べられる事を願っています。

(H25.1.14撮影)

(19)

我が里山のパノラマ



【コメント】

今も息づく佐須地区にみられる里山の一大パノラマは、まさに典型的な景観を表している。その全景を見るには平坦地である柏野小学校を背にして佐須街道の北側を仰視するのがお勧めである。

(H25.12.5撮影)

(20)

人を包み込む「カニ山」の自然



【コメント】

佐須地区にみられる里山は自然ワールドを形成している。ここ「カニ山」の雑木林は子供達にとって自然に親しめる格好の遊び場であり、大人にとっても身近な散策の場として馴染むことができる。

(H25.12.5撮影)

(21)

浮島だった祇園寺



【コメント】

古刹，祇園寺の東側一帯は，かつて水田が広がっていた。祇園寺と祇園寺通りが一段と盛り上がった存在で，あたかも浮島の様相を呈していた。その景観は畑地に転換された今でもその面影は残されている。

(H25.11.30撮影)

(22)

今も息づいている用水路



【コメント】

かつて用水路は広大な水田耕作に不可欠な存在であった。現在、用水は農作物の洗浄と子供たちの遊びの場として息づいている。なお、用水の行先は「野川」に排水口があって流れ出ており、今も健在である。

(H25.11.30撮影)

(23)

人を包み込む「カニ山」の自然の眺望



【コメント】

佐須地区にみられる里山は自然ワールドを形成している。ここ「カニ山」の雑木林は子供達にとって自然に親しめる格好の遊び場であり、大人にとっても身近な散策の場として馴染むことができる。

(H25.12.5撮影)

(24)

冬うらら



【コメント】

何度かこのあたりを巡るうち，この風景に出遭ひました。昔ながらの農村風景に心なごみました。

(H25.12.30撮影)

(25)
はけ径



【コメント】
調布の中で好きな場所です。一年を通じて何度か出掛けますが、中でも落葉の頃が一番好きです。

(H25.12.17撮影)

(26)

収穫期



【コメント】

銀杏の美しいところを見はからって出掛けました。

暖かく良い日和でしたので近くの畠では大根，キャベツ，ネギなどを収穫する光景がみられました。

(H25.12.4撮影)

(27)

冬囲



【コメント】

この菜畑が一番色合ひが綺麗でみずみずしく見えました。あと半日遅かったらビニールでかぶされてしまふところでした。

(H25.11.11撮影)

(28)

冬近し



【コメント】

立冬の一日前，周囲はまだ青々として居りました。

(H25.11.6撮影)

(29)

野川の桜



【コメント】

野川の桜を眼下に飛ぶ野鳥との「春の風情」を楽しみました。

(H24.4.12撮影)

(30)

ダイコンとブロッコリー



【コメント】

農作業に忙しいおかあさんが、問いかけに足を止め「ダイコンとブロッコリーだ。」・・・と

(H25.11.18撮影)

(31)

蜜柑に太陽！



【コメント】

蜜柑に太陽が降り注いでいました。

(H25.11.18撮影)

(32)

野草園広場



【コメント】

深い緑と陽だまりが心と身体を休めます。

(H25.11.18撮影)

(33)

倒れそう！



【コメント】

だるまが倒れる瞬間を今か今かで見守るみんな。毎年この行事を楽しみにしている子供達。そして大人も。大切な行事をして、いつまでも続いてほしい。

(H24.1.114撮影)

(34)

森の入口



【コメント】

かに山へ子ども達と遊びに行くと，森が出迎えてくれるように感じるこの入口。澄んだ空気に思わず深呼吸したくなる。

(H24.11.20撮影)

(35)

冬のかに山遊び



【コメント】

秋から冬にかけて落ち葉で敷きつめられた地面は，子ども達の遊び心を刺激する。縄とびをするとカサカサ。縄とび競争のスタートだ。

(H25.12.29撮影)

(36)

野鳥の水飲み場



【コメント】

都立府中農業高校神代農場から流れてくる湧き水は野鳥たちが水をよく飲む姿を見かけますが、すぐ飛びたち写真を撮ることはできませんでした。

(H26.1.7撮影)

(37)

飛び去った後・・・



【コメント】

鳥のさえずりが喧しいほどでしたが，カメラを向けると飛び去ってしまいました。

(H25.12.18撮影)

(38)

美しい風景



【コメント】

師走のかに山は輝いているようでした。

(H25.12.28撮影)

(39)

輝くかに山



【コメント】

朝日に輝くかに山がきれいです。

(H25.12.21撮影)

(40)

佐須の畑の道



【コメント】

農家の方の家の垣根になんと実がなっています。

(H25.12.21撮影)

※以下2点は，応募いただいたものの，本コンテスト区域対象外(募集テーマ対象外)の写真のため審査対象外となります。

山門の帰り道



【コメント】

お参りを終えて，深大寺山門の帰り道。(H25.11.18撮影)

そば畑



【コメント】

美しく咲くそばの白い花。(H23.6.19撮影)

賞状

入賞

様

あなたの作品は深大寺・
佐須地域風景写真コンテ
ストにおいて地域の素晴
らしさを伝えた優秀な作
品と認められましたので
ここに賞します

平成26年2月2日

調布市長 長友貴樹

写真で魅力を再発見 深大寺・佐須地域の風景



調布市

四季折々の里山風景を見せる 深大寺・佐須地域。

深大寺・佐須地域では、用水路沿いに田んぼが営まれている場所もあり、武蔵野地区では減少している貴重な水田風景が望めます。特に、国分寺崖線の緑を背景に、歩く人々の心をいやしてくれる里山の光景は、この地域の魅力の一つでもあります。

調布市では、この深大寺・佐須の風景を取めた写真を公募し、写真コンテストを行ないました。たくさんの作品をご応募をいただき、その中から、5点を入賞作品とさせていただきます。



① 倒れそう！



② 木漏れ日

深大寺・佐須地域風景写真コンテスト入賞作品（5点）



③夏に向かって



④佐須用水と案山子と天日干し



⑤冬囲

水・緑・農のある風景の写真。～深大寺・



春の使い



新葉



春よ来い



個性



季節は移ろい心



水路を覗くと



初夏の水田



初夏の里



冬の里山



深大の秋の収穫



かに山公園へ向かう道



子どもたちの探検



晩秋



冬のかに山遊び



飛び去った後・・・



佐須の畑の道



輝くかに山



美しい風景



おいしい野菜が出来る畑



我が里山のパノラマ

この写真コンテストは、
「深大寺・佐須地域の農を活用したまちづくりシンポジウム」の
一環として行なわれました。

深大寺・佐須地域風景写真コンテストに応募いただいた作品については、平成26年2月2日に市民プラザあくろすで実施した「深大寺・佐須地域の農を活用したまちづくりシンポジウム」において来場者等による投票を行い、5作品の入賞作品を選出しました。このシンポジウムは、都市農地をはじめとする深大寺・佐須地域の環境資源を市民の皆様とともに再認識し、都市農業の理解促進を図るとともに、農を活用したまちづくりを考えることを目的に開催しました。

※「深大寺・佐須地域農を活用したまちづくりシンポジウム」は、国土交通省「平成25年度集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成実証調査」の一環として調布市が実施したものです。



佐須地域風景写真コンテスト応募作品～



人を包み込む「カニ山」の自然



浮島だった祇園寺



収穫期



ダイコンとブロッコリー



冬うらら



野草園広場



蜜柑に太陽！



山門の帰り道



冬近し



森の入口



木々のトンネルの先におひさま



野鳥の水飲み場



そば畑



今も息づいている用水路



人を包み込む「カニ山」の自然の眺望



はげ径



野川の桜

※一部、募集区域対象外の作品がありますが、近隣環境のすばらしさを伝える写真として掲載しています。



この、水と緑豊かな里山の風景を維持・保全していくため、調布市では、都市農業を支援していく取組や、長期的な保全に向けた方策の検討など、さまざまな取組を進めています。



編集／調布市環境部環境政策課(平成26年3月)

国土交通省「平成25年度集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成実証調査(調布市深大寺・佐須地域の農地等の保全・活用実証調査)」より

写真コンテスト作品 ウェブサイトでの広報・啓発（画面抜粋）

深大寺・佐須地域の環境 深大寺・佐須地域の風景写真

深大寺・佐須地域 風景写真

深大寺・佐須地域には調布市の中北に位置し、北東側には調布の観光スポットである深大寺や額立神代植物公園、南側には散歩に適した野川があります。